

13 鋼管柱の孔あけのポイント

(1) ベース部のスカラップ

〈ダブルフランジ〉

図13-1は一般的なダブルフランジ構造の例です。底部フランジが管内面に対してカエリとなり垂鉛の流出を防げ、垂鉛の残留が生じます。従って、スカラップのほかに図の位置に孔あけが必要となります。

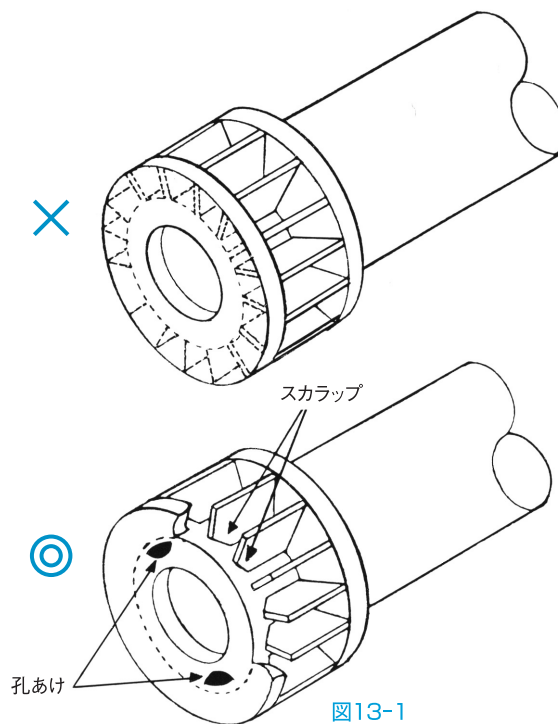


図13-1

〈八角柱インナーフランジ〉

大部分の垂鉛は開口部から流出しますが、残留垂鉛の完全な流出には図13-2のような位置に孔あけをしてください。

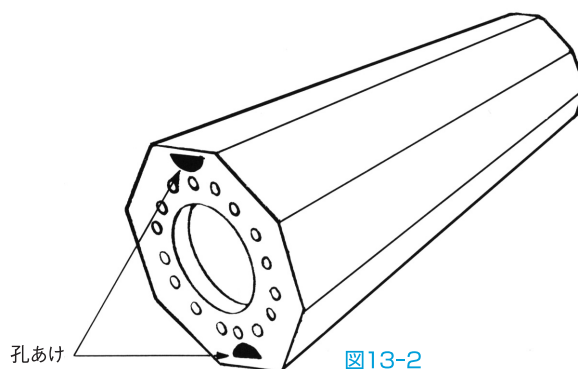


図13-2

〈角柱のベースフランジ部〉

図13-3は角柱の例です。このような場合はスカラップを取るだけでなく、孔あけ、オープンなどの総合的な配慮をすることが必要です。

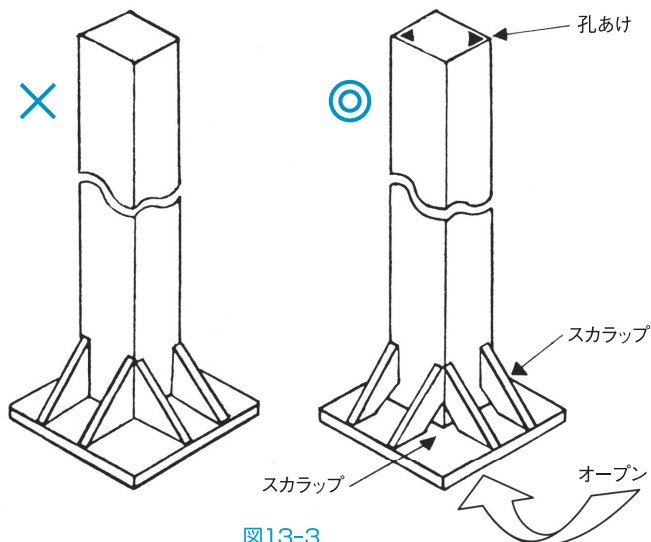


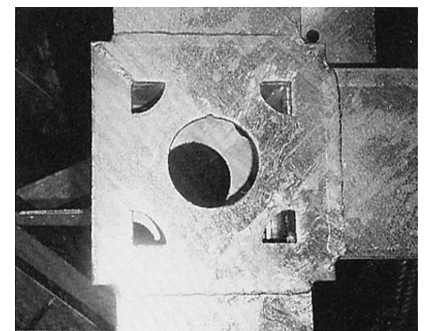
図13-3

(2) ダイヤフラム部の孔あけ

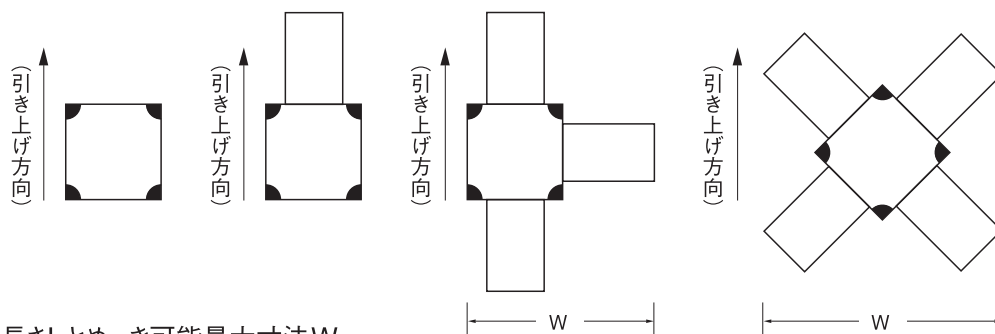
■ダイヤフラム部・ベースプレート部・天蓋部標準孔あけ寸法表

角パイプ	孔サイズ		ダイヤフラム・ベースプレート	天蓋部
	R、 ϕ_1	ϕ_2		
□-100 ²	25			
□-125 ²	30			
□-150 ²	40			
□-175 ²	45			
□-200 ²	35	80		
□-250 ²	35	100		
□-300 ²	35	130		
□-350 ²	50	150		
□-400 ²	50	175		
□-450 ²	50	200		
□-500 ²	50	250		

ダイヤフラム部の開孔率は、パイプ断面積の20%以上を必要とします。



(3) めっき可能な仕口部の最大寸法



■製品長さLとめっき可能最大寸法W

L > 9,000mmの場合	W = 1,700mm
L < 9,000mmの場合	W = 2,000mm